

## 福臨技企画 1

「“New Normal” 新たな時代を迎えて～新型コロナウイルス感染下における技師会活動の今後～」

# 新型コロナウイルス感染症発生を契機とした これからの技師会活動

◎馬渡 裕康<sup>1)</sup>

一般社団法人鹿児島県臨床検査技師会 副会長<sup>1)</sup>

これまで、鹿児島県臨床検査技師会は研修会開催及び県民に対して公益事業等を行ってきた。しかし、2020年から始まった新型コロナ感染症（COVID-19）の流行と、度重なる緊急事態宣言やまん延防止重点措置により、技師会活動の自粛を余儀なくされた。

組織活動の会員交流活動、各種団体との連携による公益活動も自粛又は Web 開催となったが、感染対策の一環として PCR 実技研修、ワクチン打ち手研修会などを開催した。なかでも「新型コロナウイルス感染症検査サポートチーム」を設置して、県内の医療機関や施設に臨床検査技師を派遣し、検体採取及び PCR 検査等を実施し医療支援を行ったことだ。

学術活動においては、感染状況を考慮しながら開催方法を模索する状況が続いた。例年、鹿児島県 6 地区及び学術部門での研修会が 25～30 件開催されていたが、2020 年では 6 件、2021 年においては 7 件になった。現在までの活動や開催方法は Zoom 等を用いた Web 開催が中心になっている。

Web での活動は当初不慣れな点が多かったが、会場まで足を運ぶ手間がかからず、ネット環境さえあれば手軽に参加出来る点から参加者が増えてきている。また、当会においては離島地区があることから、従来の研修会形式を考えさせられる新たな変革と捉えている。今後は通常の活動及び開催が実施出来るようになると思うが、現地開催＋Web 開催が主流となるであろう。

令和 2 年に鹿児島県では基本的な感染対策を継続しながら、社会経済を推進する「新しい生活様式」の中、今後は周期的な波が繰り返すことを考慮し、ゼロコロナを目指すのではなく、コロナウイルスと共存できる生活スタイルを目指し感染予防・検査・治療の各段階で新たな手段を加え、備えを充実していく必要がある。

本シンポジウムでは、当会が行ってきた技師会活動内容を報告する。